

## 西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相をゆがめ、沖縄の平和教育を否定する発言に対する抗議決議

令和7年5月3日、憲法記念日に那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、自民党の西田昌司参議院議員がひめゆりの塔の展示に対し「歴史の書換え」や、「沖縄の場合には地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている」等との発言をした。

西田氏の発言は、住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、県民の4人に1人の貴い命が奪われた沖縄戦の実相をゆがめ、戦没者や戦争体験者を冒瀆し「再び戦争を起こしてはならない」という平和教育を継承してきた沖縄県民の尊厳を踏みにじるものであり、決して看過できるものではない。

ひめゆり平和祈念資料館の資料は、過酷な体験を強いられた生存者の貴重な証言と関係者の努力で成り立っており、日本軍や米軍の公的資料とも一致し史実との矛盾はなく、「再び戦争を起こしてはならない」という理念に基づいている。

沖縄県ではひめゆり学徒隊など生徒を戦場へ送ったという歴史的事実を踏まえ「子どもたちを二度と戦場に送らない」という揺るぎない決意と、文部科学省の学習指導要領に基づき「命の尊重」「平和の尊さ」を伝える教育を実践している。

その後西田氏は「ひめゆりの塔」に言及したことを「TPO（時、場所、場面）をわきまえるべきだった」と弁明したが、沖縄の歴史教育や平和教育を非難した根幹部分については謝罪も撤回もせず、さらに月刊誌によって「事実を語った」と寄稿している。

戦後80年たった今も戦争体験者や遺族は深い悲しみを抱えている。本市は「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」により恒久平和を築くため全力を尽くすことを誓っている。

よって、沖縄を戦場にさせないことを表明するとともに、戦没者や戦争体験者を冒瀆し、県民の尊厳を踏みにじる西田氏の発言に対して、満身の怒りをもって抗議するとともに、以下の事項を強く要求する。

### 記

- 一 西田昌司参議院議員は「ひめゆりの塔」の資料について史実に基づかない発言を戦争体験者や遺族、関係者へ謝罪、撤回すること。
- 一 沖縄戦の実相をもとに実施してきた恒久平和を望む平和教育を理解し、認識を改めたうえで、国会議員として今後の発言や行動に責任を持つこと。

以上、決議する。

令和7年6月27日

沖縄県宜野湾市議会

【あて先】 西田昌司参議院議員